

平行四辺形 ABCD において、辺 AB を $1:1$ に内分する点を E、辺 BC を $2:1$ に内分する点を F、辺 CD を $3:1$ に内分する点を G とする。線分 CE と線分 FG の交点を P とし、線分 AP を延長した直線と辺 BC の交点を Q とするとき、比 $AP:PQ$ を求めよ。

(13 京都大 理 1 文 2)

$AP:PQ = 19:3$
解答は次のページにあります。

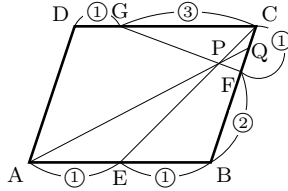
【チェック・チェック】

2直線の交点を扱った問題ですが、図形が平行四辺形になっているので、三角形のときよりもベクトルの扱いに幾分注意が必要となります。平面上のどんなベクトルも2つの1次独立なベクトルで表すことができます。

【解答】

P は直線 CE 上にあるから

$$\begin{aligned}\vec{AP} &= (1-s)\vec{AE} + s\vec{AC} \\ &= \frac{1}{2}(1-s)\vec{AB} + s(\vec{AB} + \vec{AD}) \\ &= \frac{1}{2}(1+s)\vec{AB} + s\vec{AD} \quad \cdots \cdots \textcircled{1}\end{aligned}$$



← P は直線 CE と直線 FG の交点である。

となる実数 s が存在する。

また、P は直線 FG 上の点であるから

$$\begin{aligned}\vec{AP} &= (1-t)\vec{AF} + t\vec{AG} \\ &= (1-t)\left(\vec{AB} + \frac{2}{3}\vec{AD}\right) + t\left(\vec{AD} + \frac{1}{4}\vec{AB}\right) \\ &= \left(1 - \frac{3}{4}t\right)\vec{AB} + \left(\frac{2}{3} + \frac{1}{3}t\right)\vec{AD} \quad \cdots \cdots \textcircled{2}\end{aligned}$$

\vec{AB}, \vec{AD} は1次独立であるから、①、②より

$$\begin{cases} \frac{1}{2}(1+s) = 1 - \frac{3}{4}t \\ s = \frac{2}{3} + \frac{1}{3}t \end{cases} \quad \begin{cases} 2s + 3t = 2 \\ 3s - t = 2 \end{cases}$$

$$\therefore s = \frac{8}{11}, t = \frac{2}{11}$$

$$\therefore \vec{AP} = \frac{19}{22}\vec{AB} + \frac{8}{11}\vec{AD} \quad \cdots \cdots (*)$$

次に、Q は直線 AP 上にあるから

$$\vec{AQ} = k\vec{AP} = \frac{19k}{22}\vec{AB} + \frac{8k}{11}\vec{AD} \quad \cdots \cdots \textcircled{3}$$

となる実数 k が存在する。さらに、Q は直線 BC 上の点でもあるから

$$\vec{AQ} = \vec{AB} + u\vec{BC} = \vec{AB} + u\vec{AD} \quad \cdots \cdots \textcircled{4}$$

\vec{AB}, \vec{AD} は1次独立であるから、③、④より

$$\begin{cases} \frac{19k}{22} = 1 \\ \frac{8k}{11} = u \end{cases} \quad \therefore k = \frac{22}{19}, u = \frac{16}{19}$$

よって

$$AP : PQ = 1 : (k - 1) = 19 : (22 - 19) = \mathbf{19 : 3} \quad \cdots \cdots (\text{答})$$

• (*) の \vec{AP} を \vec{AB} と \vec{AC} で表す。

$$\begin{aligned}\vec{AP} &= \frac{19}{22}\vec{AB} + \frac{8}{11}\vec{AD} = \frac{19}{22}\vec{AB} + \frac{8}{11}(\vec{AC} - \vec{AB}) \\ &= \frac{3}{22}\vec{AB} + \frac{8}{11}\vec{AC} = \frac{19}{22} \frac{3\vec{AB} + 16\vec{AC}}{19}\end{aligned}$$

← 2通りの表現①、②をつくる。

← 1次独立による表現の一意性

← 2通りの表現③、④をつくる。

← 1次独立による表現の一意性

← 分点公式が現れるように式を変形する。

$\frac{\vec{3AB} + 16\vec{AC}}{19}$ の終点は直線 AP 上にあり、かつ線分 BC を
16 : 3 に内分する点であるから辺 BC 上の点でもある。すなわ
ち、点 Q である。

$$\therefore \vec{AP} = \frac{19}{22} \vec{AQ}$$

よって、 $AP : PQ = 19 : (22 - 19) = 19 : 3$